

## 第 2 2 回宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成 28 年 8 月 18 日（水） 13：00－14：10

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、青木委員、中村委員、薬師寺委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 政府側

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、松井参事官、行松参事官、高見参事官、佐藤参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省宇宙開発利用課長

堀内 義規

JAXA 理事

常田 佐久

JAXA 宇宙科学研究所宇宙科学プログラムディレクタ

久保田 孝

4. 議事要旨

(1) X 線天文衛星「ひとみ」の代替機について

資料 1、資料 2 に基づき事務局から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。(○：質問・意見等 ●：回答)

○科学コミュニティや海外関係機関の理解については、短期間で意見統一されているようだが、反対意見はあったのか。代表的な反対意見はどのようなものがあったのか。

●反対意見については、「意思決定のスピードが早い、時間をかけて慎重に議論すべき」という意見や、物理学の広範な分野も厳しい状況で研究を行っているので、「もう少し広い分野で理解を得ることが必要」という意見もあった。これらについては、これまで様々な場で説明し、理解を得るなどしているが、引き続き取り組んでいきたい。

○今回の対策を一律に適用してしまうと JAXA 宇宙科学研究所 (ISAS) の良さを生かすことができなくなってしまうのではないか。

●今回の対策は ISAS の良さを確実にするための対策と考えている。プロジェクトマネージャ (PM) とプリンシパルインベスティゲータ (PI) を分けることは、研究者がこれまで本来やるべきではない業務を担うことも多かったので、これを改善できるもの。人工衛星を製造する時にメーカーとの責任分担が明確になり、従来以上に責任を発揮できる。文書化は ISAS だけではなく、全社の知見・リソースを活用してやっていく。今回の対策により、より良い方向に向かうと考える。ただし、プロジェクトの規模、ミッションの個性にも応じて進めていきたい。

○代替機を打ち上げる場合には、今年度中は何を行うのか。

●代替機の開発を認めていただく場合には、今年度中でもできることをする。4 つの対策をプロジェクト実施体制に盛り込むことや、PM・PI などの人材を配置し、設計の見直しの総点検などをして準備をしたい。

○国内の代替機が承認されて、海外と調整していく場合には、4年の開発期間の中で、クリティカルな要素はあるのか。

●NASAと協力する場合には、ハードウェアの製作は淡々と進むと思われるが、「ひとみ」は一か月動いただけで5年間は動いていないという理解の下、慎重に設計を見直すなどしていきたい。この際に、代替機となると直したい箇所が見つかることが多いが、信頼向上になる箇所を中心に直したい。

審議の結果、X線天文衛星「ひとみ」の代替機に係る本部会の見解は、本日の議論を踏まえ、一部修正した上で、宇宙政策委員会に報告することとなった。修正については部会長に一任となった。

また、今後ひとみと同様の事象が発生した場合に、代替機の開発を検討する際の目安となる基本的な考え方について、事務局から、資料2の内容を一般化してはどうかとの提案があり、議論が行われた。この議論の結果については、今後、宇宙政策委員会に報告することとなった。

以 上